

# DCP-NB002-H 使用法

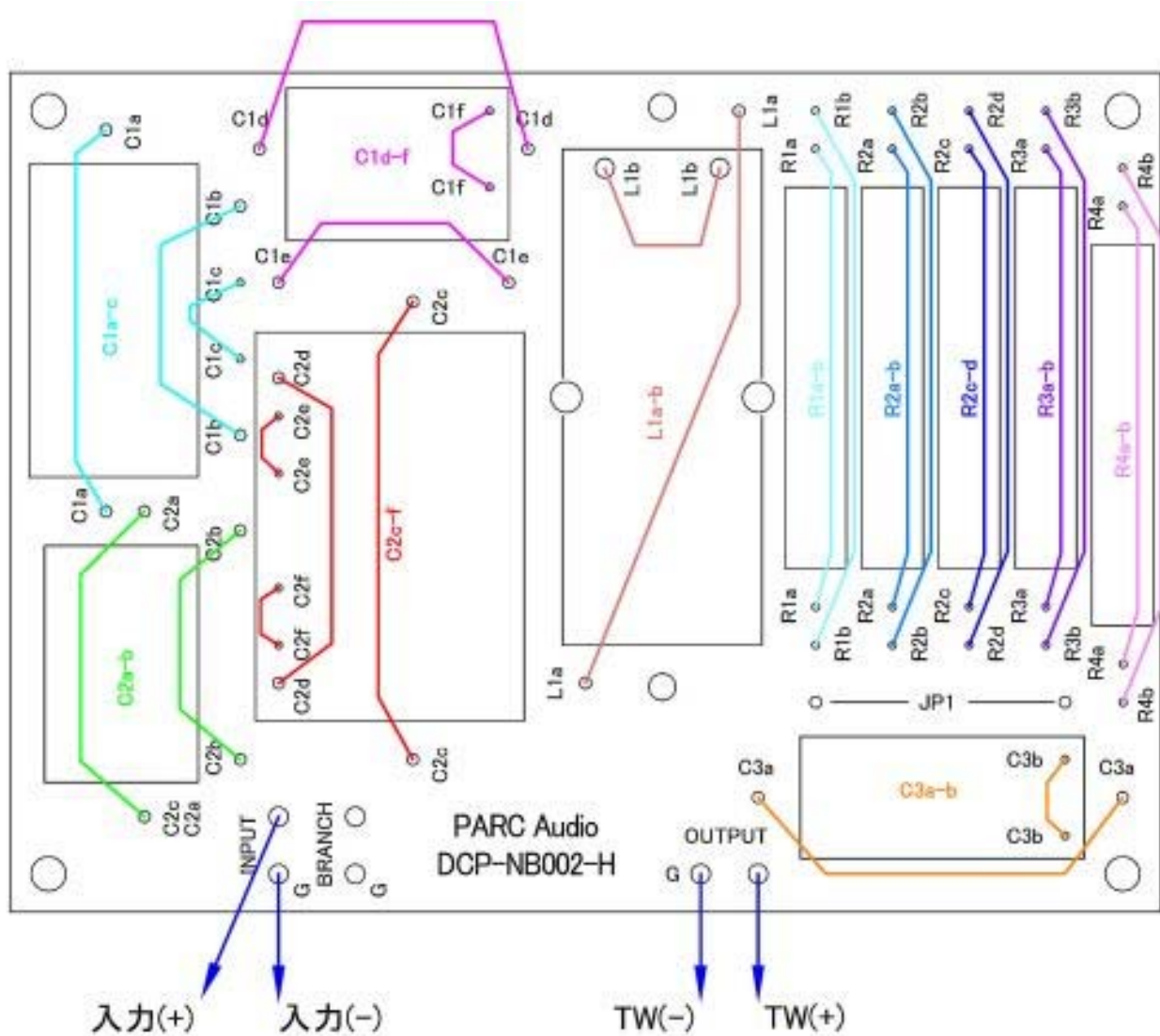
## 1) リード線の接続について

コンデンサー、コイル、抵抗共に、素子の取付穴はそれぞれ(a~f)の同じ穴に接続してください。  
下図のリード線の接続図を参考にしてください。

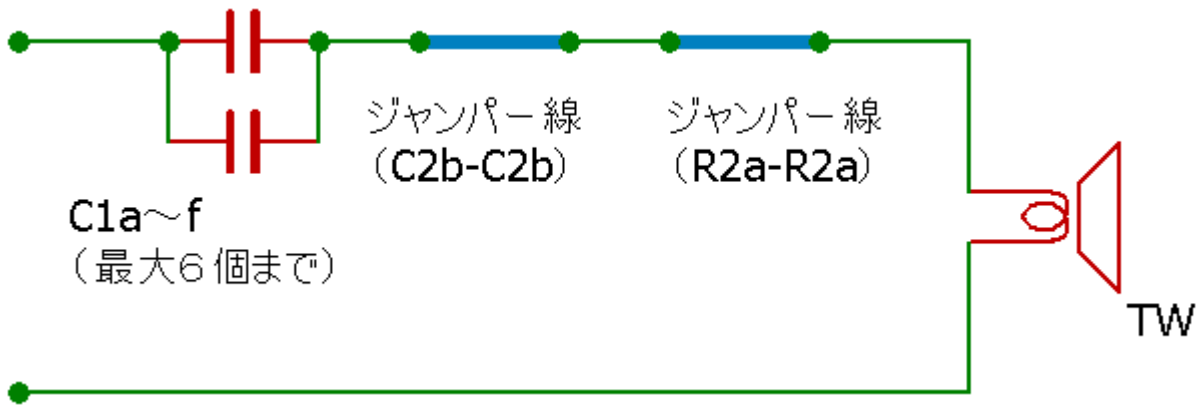
例)\*コンデンサーC1a → C1a の穴と C1a の穴に接続  
(片方を C1a、残りの片方を C1b などの接続は NG です。)

\*コンデンサーC1b → C1b の穴と C1b の穴に接続

コンデンサーは、リード線の位置によって、接続位置を選んでください。



## 2) -6dB/oct. (Att.無し) の場合



C2b~C2b と、R2a~R2a の間にジャンパー線（2本）を接続し、短絡します。

C1a~C1f に、最大6個のコンデンサー（1個でも OK）を接続します。

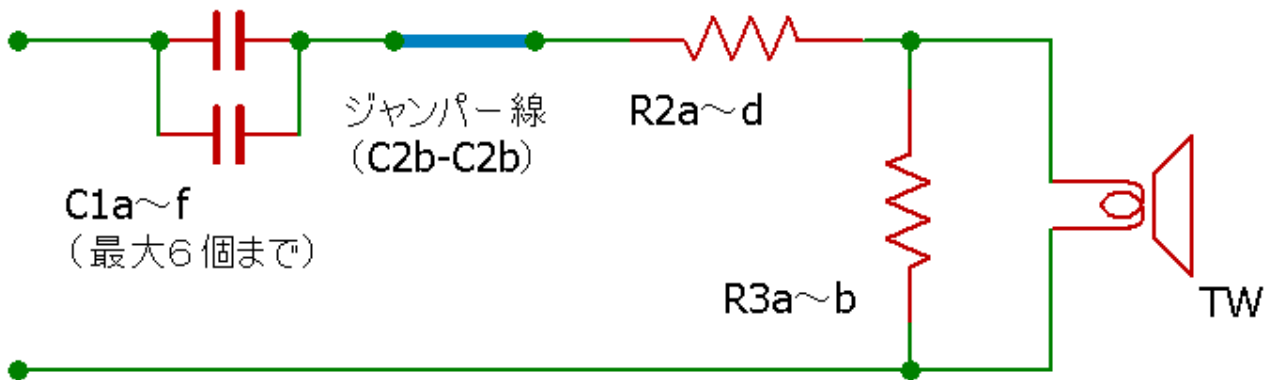
それぞれのコンデンサーはパラ（並列）接続になりますので、最終的な定数は全てのコンデンサーを合計したものになります。

例) \*C1a = 1uF, C1e = 3.3uF の場合 → C1 としては 4.3uF となります。

WF も-6dB/oct.の場合は、基本的に TW は逆相接続になります。

(TW のタイムアライメントを物理的にしている場合は、位相が変更になることもあります)

## 3) -6dB/oct. (Att.付き) の場合



C2b~C2b の間にジャンパー線（1本）を接続し、短絡します。

C1a~C1f に、最大6個のコンデンサー（1個でも OK）を接続、

R2a~R2d に最大4個の抵抗と、R3a~R3b に最大2個の抵抗を接続します。

それぞれの抵抗はパラ（並列）接続になりますので、それぞれの最終的な抵抗値は下記になります。

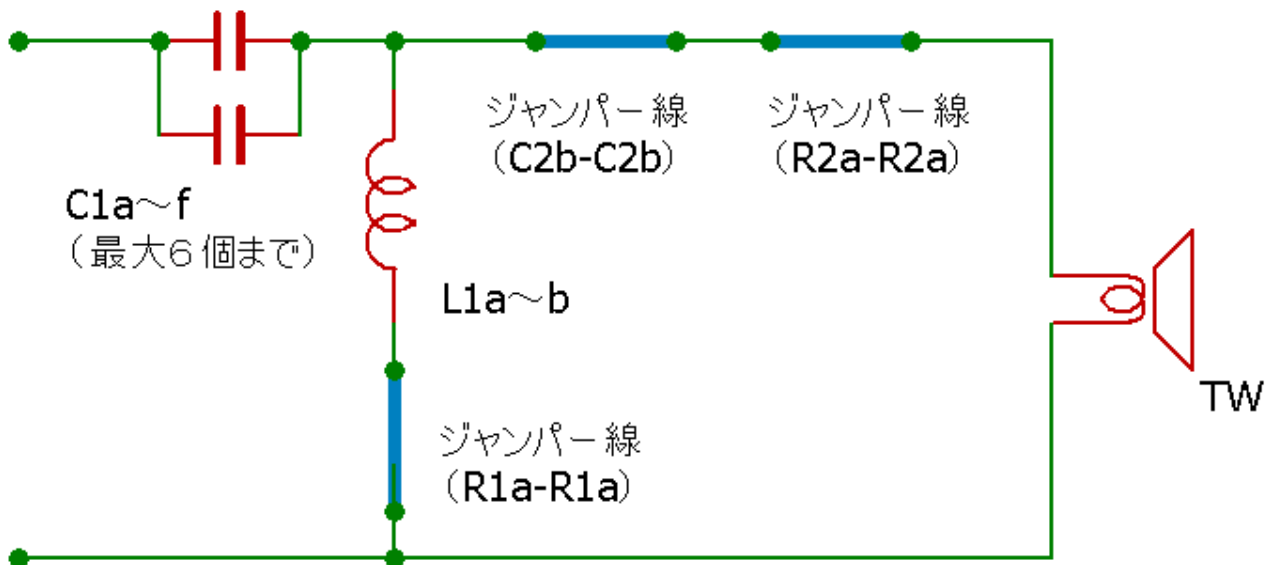
例) \* R2a = 10Ω, R2c = 10Ω の場合 → R2 (合計) は 5Ω

\* R2a = 10Ω, R2b = 10Ω, R2c = 10Ω, R2d = 10Ω の場合 → R2 (合計) は 2.5Ω

\* R3a = 10Ω, R3b = 10Ω の場合 → R3 (合計) は 5Ω

ATT の R2a~R2d は、シリーズ（直列）で TW に接続されるため、出切るだけ耐パワーに余裕を持たせるように複数個での使用を推奨します。

#### 4) -12dB/oct. (Att.無し) の場合



C2b~C2b、R2a~R2a、R1a~R1a の間にジャンパー線 (3本) を接続し、短絡します。

L1a か L1b のどちらかに、1個のコイルを接続します。

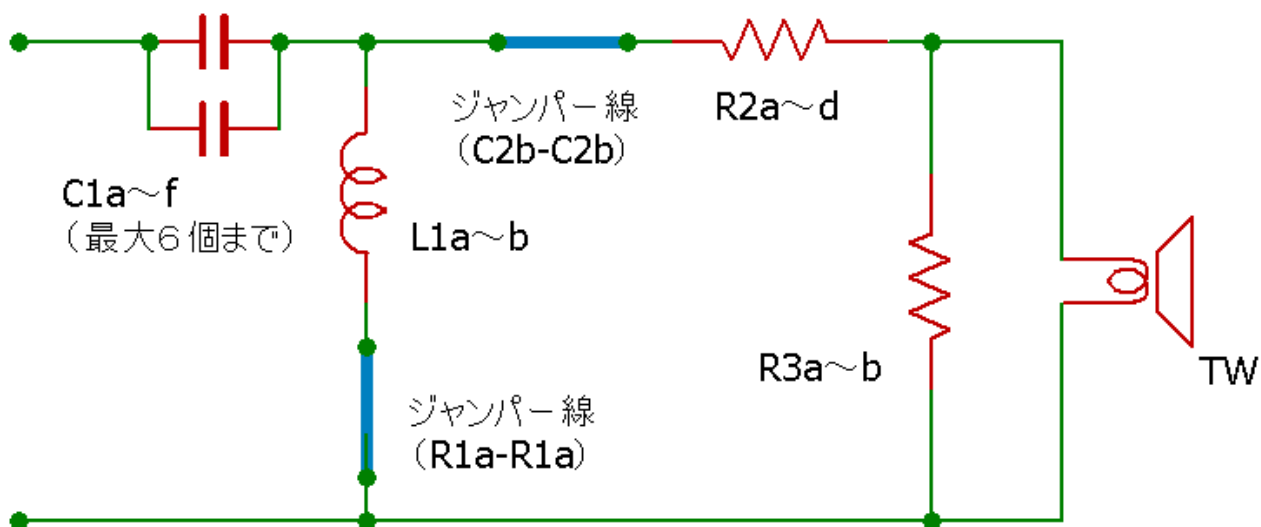
複数のコイルを近傍に設置すると干渉するため、L1は1個のコイルを接続することを推奨します。お使いのコイルのリード線の位置で接続する端子穴部を選択してください。

C1a~C1fについては、上記2)を参照してください。

WFも-12dB/oct.の場合は、基本的にTWは正相接続になります。

---

#### 5) -12dB/oct. (Att.付き) の場合

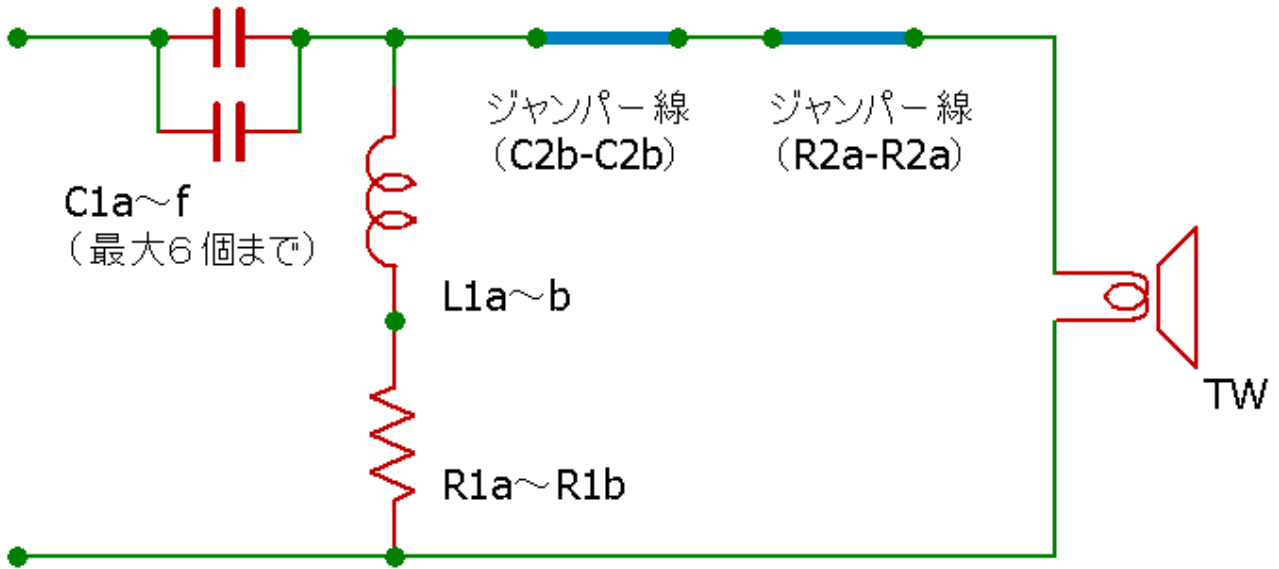


C2b~C2b、R1a~R1a の間にジャンパー線 (2本) を接続し、短絡します。

C1a~C1fについては上記2)を、L1a か L1b については上記4)を参照してください。

R2a~R2d と R3a~R3b については、上記3)を参照してください。

6) -12dB/oct. (Att.無し) + ダンプ抵抗付きの場合



C2b~C2b、R2a~R2a の間にジャンパー線 (2本) を接続し、短絡します。

R1a~R1b には、最大2個のダンプ抵抗を接続します。

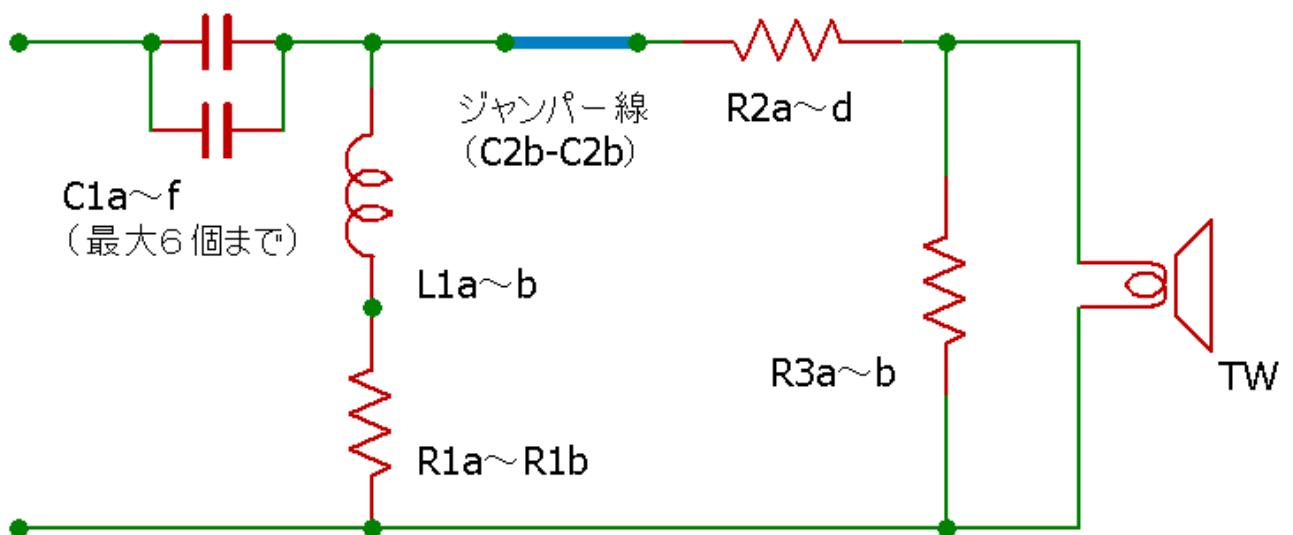
それぞれの抵抗はパラ (並列) 接続になりますので、それぞれの最終的な抵抗値は下記になります。

例) \* R1a = 2Ω, R1b = 2Ω の場合 → R1 (合計) は 1Ω

ダンプ抵抗を接続することで、TW のローカットの肩特性を微調整できます。

C1a~C1f については上記 2) を、L1a か L1b については上記 4) を参照してください。

7) -12dB/oct. (Att.付き) + ダンプ抵抗付きの場合

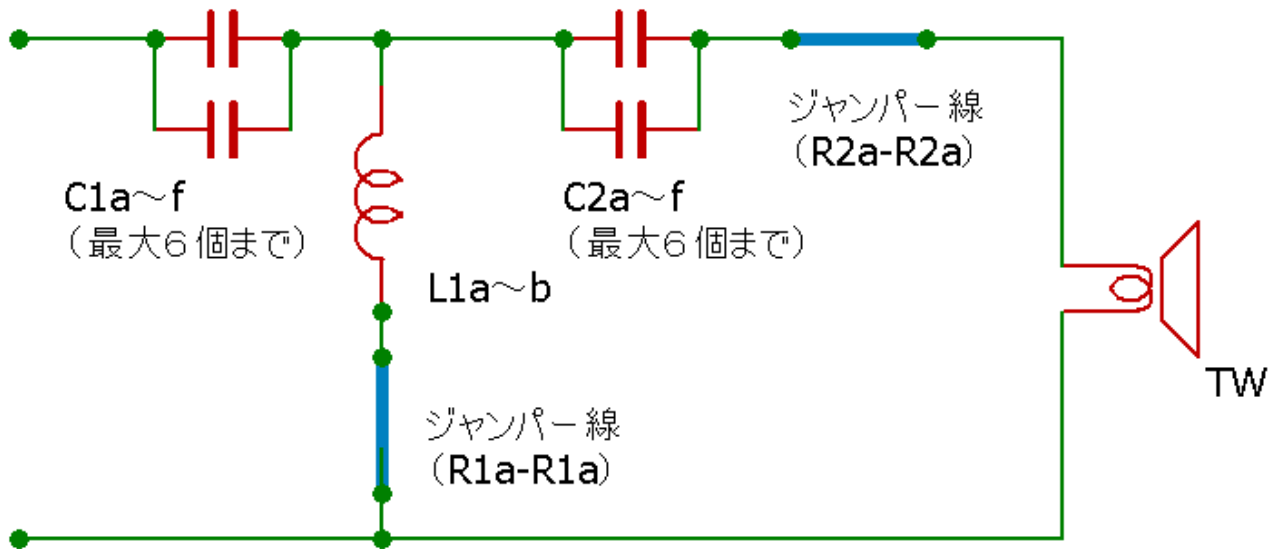


C2b~C2b の間にジャンパー線 (1本) を接続し、短絡します。

C1a~C1f については上記 2) を、L1a か L1b については上記 4) を、

R2a~R2d と R3a~R3b については上記 3) を、R1a~R1b は上記 6) を参照してください。

8) -18dB/oct. (Att.無し) の場合



R2a~R2a、R1a~R1a の間にジャンパー線 (2本) を接続し、短絡します。

C2a~C2f に、最大6個のコンデンサー (1個でも OK) を接続します。

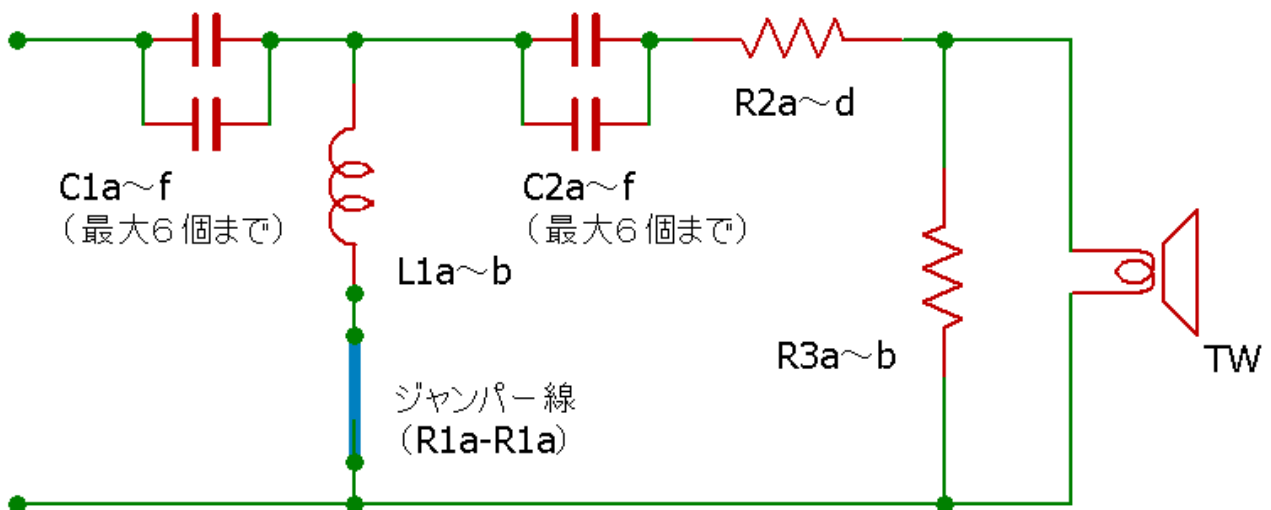
それぞれのコンデンサーはパラ (並列) 接続になりますので、最終的な定数は全てのコンデンサーを合計したものになります。

例) \*C2a = 10uF, C2e = 4.7uF の場合 → C2 としては 14.7uF となります。

C1a~C1f については上記 2) を、L1a か L1b については上記 4) を参照してください。

WF も -18dB/oct. の場合は、基本的に TW は逆相接続になります。

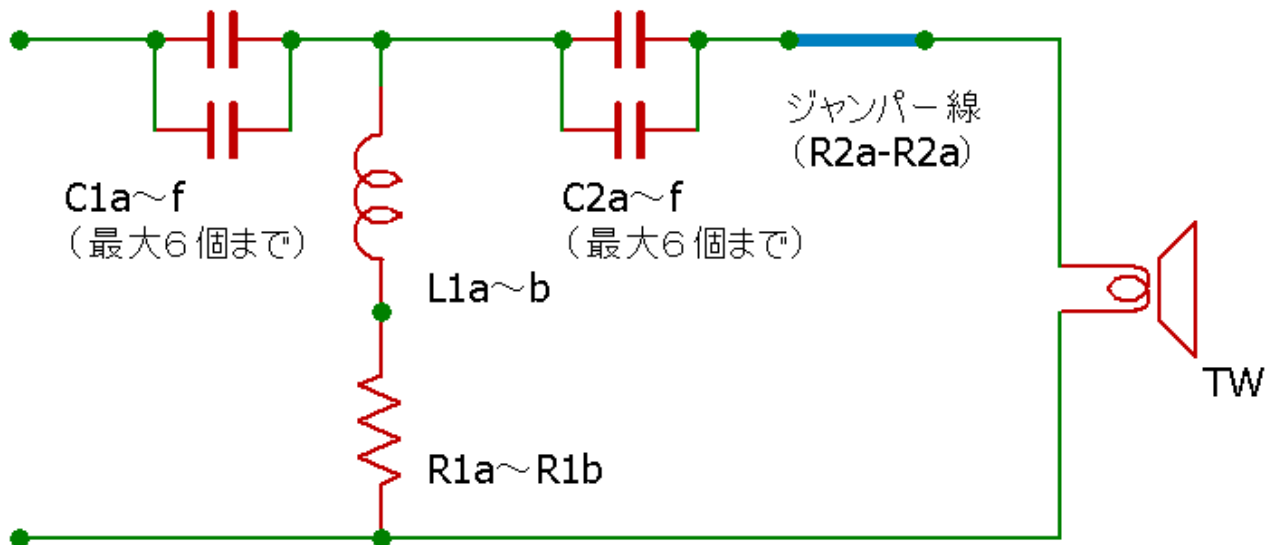
9) -18dB/oct. (Att.付き) の場合



R1a~R1a の間にジャンパー線 (1本) を接続し、短絡します。

C1a~C1f については上記 2) を、R2a~R2d と R3a~R3b については上記 3) を、L1a か L1b については上記 4) を、C2a~C2f については上記 8) を参照してください。

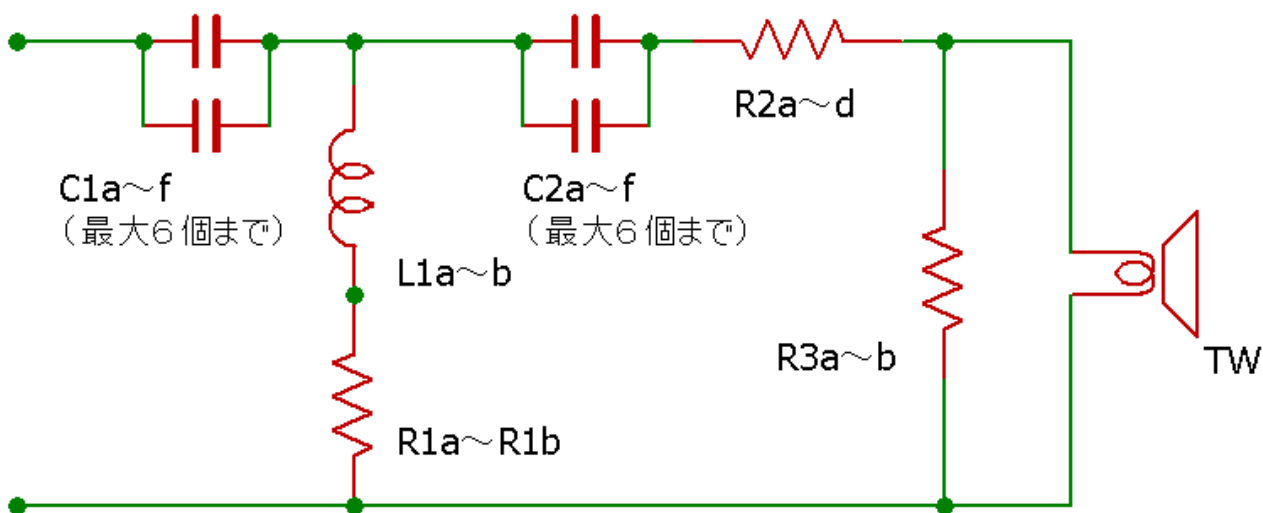
1 0) -18dB/oct. (Att.無し) +ダンプ抵抗付きの場合



R2a~R2a の間にジャンパー線 (1 本) を接続し、短絡します。

C1a~C1f については上記 2) を、C2a~C2f については上記 8) を、  
L1a か L1b については上記 4) を、R1a~R1b は上記 6) を参照してください。

1 1) -18dB/oct. (Att.付き) +ダンプ抵抗付きの場合



C1a~C1f については上記 2) を、C2a~C2f については上記 8) を、  
L1a か L1b については上記 4) を、R1a~R1b は上記 6) を、  
R2a~R2d と R3a~R3b については上記 3) を参照してください。

1 2) インピーダンス補正回路

R4a~b、C3a、C3b は TW のインピーダンス補正を行う場合にお使いください。  
それ以外の時は、素子の接続は不要です。